

社寺名 吉藤三島神社 (松山市吉藤町 1-2-25)

奉納者 松岡多三郎
まつおか たさぶろう

奉納年 明治 13 年 (1880 年)

解 説

松岡多三郎は、安政 2 年 (1855) 7 月 20 日当地 (現在松山市吉藤町) の庄屋の長男として生まれ、幼少より茶道・華道を身につけ、一方、松山に数台しかない自転車を乗り廻し、近所では非常に“ハイカラな人”で通っていた。和算を研究しはじめると別棟に研究室を建て、研究に没頭していた。時折、近所の山の頂上で風船をとばして気象観測や天体観測を行ったりするので、近所では“変わり者”と噂されてもいた。

自分の息子が勉強しないので“子どもの成長を祈願して奉納した”との噂が広がり、奉納後はみちがえるように勉強をしたとのことである。(孫・松岡文雄談)

松岡太三郎の名で伊佐爾波神社に算額を奉納しているが、同一人物である。

平成 16 年 11 月 11 日 松山市指定有形民俗文化財に指定されている。

明治十三年
七月

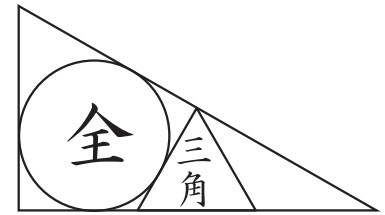
和氣郡吉藤村

松岡多三郎

印
印

温泉郡山崎昌龍 門人

術曰置釣自之加股冪_ラ平方_ニ開之加股_ラ名天_ト
内減釣_ラ餘倍而名地_ト置三個平方開之乘天_ラ
以釣_ニ除之加三箇_ラ以除地_ラ得三角面合問



今有如圖釣股内容平圓與三角只言釣
壹百零八間六合又云股一百四拾四間
八合問三角面術幾何

答曰三角面五十三間有奇

問題文

図のように、直角三角形(釣股)内に円と正三角形を入れる。直角をはさむ2辺の内、釣の長さが108間6合、股の長さが144間8合であるとき正三角形の1辺の長さはいくらか。